

《せつ明文1》

せつ明文を読むときは、次のような点に注目しましょう。

(1) 何についてせつ明しているのかを見つける

何についてのせつ明なのかは、「問い」の形で文章のはじめの方に書かれていることがほとんどです。

(2) だん落ごとに何が書かれているかを読み取る

それぞれのだん落ごとに、たとえば次のようなはたらきがあります。

- ・ 問いをしめす
- ・ 具体てきなれいを出してせつ明する
- ・ 原いんや理由などを出してせつ明する
- ・ 言いかえてくわしくせつ明する
- ・ ほかのことにたとえてせつ明する
- ・ まとめや答えをのべる

(3) 「問い」に対する「答え」を見つける

「問い」に対する「答え」が書いてあることが多いのは、次のような場所です。

- ・ 文章の終わりのだん落
- ・ 文のはじめ
- ・ 「このように」「つまり」という言葉の後

(4) 問題をとくときは、一線部の前や後ろの文をよく読み、

答えをさがします。見つからないときには、一線部からはなれたところもさがしましょう。

【例題】

次の文章を読んで、あとの問いに答えよう。

虫歯になると、歯に大きなあながあいてしまいます。このあなは、なぜできるのでしょうか。

あまいものや、食べたもののカスが歯にのこったままだと、そこに虫歯をつくるばいきんがやって来ます。ばいきんは、人が食べたもののカスをえきにしていてのです。このばいきんがえきを食べるときに、歯をとかしてしまうのです。そのため、気づかないうちに、どんどんあなが大きくなって、やがては大きな虫歯になってしまうのです。

(問) 一線部「どんどんあなが大きくなって」とありますが、それはなぜですか。あとのア～エの中からえらぼう。

- ア かたいものを食べているから。
- イ ばいきんが歯をとかすから。
- ウ あまいものが歯をとかすから。
- エ 食べもののカスがあなのおくに入りこむから。

【答え】イ

【かいせつ】

ア～エのないようを、本文中からさがします。アは、本文にないのてまちがいになります。イは、本文に「このばい

さんがえさを食べるとき、歯をとかしてしまふのです」とあるので、これが答えになります。ウは、本文にないのです。まちがいになります。エは、本文に「カスが歯にのこったままだ」とありますが、歯にあなたがあく直せつ理由ではないので、まちがいになります。

【練習しよう】

次の文章を読んで、あとの問いに答えよう。

地球は丸い。

「そんなの当たり前じゃないか。」という声が聞こえてきそうです。でも、それが当たり前ではなかったときがあるのです。

今から五百年ほど前のヨーロッパでは、地球は平らだと思われていました。地球はどこまで行っても平らで、やがてはじに行き着くと、そこはたきになっていて、その下でかいぶつが口をあけて、来る者をのみこんでしまふと信じられていました。そのため、「地球は丸い」という人は、かわり者だと思われていたのです。

(問) —線部『地球は丸い』という人は、かわり者だと思われていたのです」とありますが、それはなぜですか。あとのア、エの中からえらぼう。

ア 地球が丸いのは当たり前のことだから。

イ 地球の上にはかいぶつがいて、人をおそうから。
ウ 地球のはじにはかいぶつがいて、人をおそうから。
エ 地球は平らだと思われていたから。

エ 答え

次の文章を読んで、あとの問いに答えよう。

みなさんが、ふだん使っている言葉は何語ですか。そう聞かれたら、あなたは何と答えますか。

「そんなの、日本語にきまっているよ。」

たしかにその通りです。でも実は、みなさんが当たり前のように使っている日本語の中には、外国から来た言葉がたくさんまぎれこんでいるのです。

たとえば、「サッカー」や「ランドセル」がそうです。サッカーはえい語、ランドセルはドイツ語が元になっています。これらの言葉は、日本にやってきたとき、それを表す日本語がなかったので、外国で使っていた言葉をそのままかりたのです。

一方、外国の言葉が元になっても、日本で使われるうちに、本来とはちがう使われ方をされたり、ちがう意味を表すようになった言葉もあります。たとえば、「マンション」や「コンビニ」などです。マンションはえい語から来た言葉ですが、アメリカでは「マンション」とは、広い庭がある大きなおやしきのことです。同じ「マンション」という言葉でも、アメリカと日本では意味するものがちがうのです。また「コンビニ」は、えい語で「べんりな店」という意味を表す「コンビニエンス・ストア」という言葉を、日本人が勝手にちぢめたものです。ですから、いくらアメリカ人に「コンビニ」と言っても、アメリカ人にはなんのことかわかりません。

ここまできて、

「カタカナで書いてある言葉が、外国から来た言葉なんだろう。」

④ と思った人もいるかもしれません。たしかに、外国から来た言葉の多くは、カタカナで書かれています。でも本当は、ひらがなで書かれている言葉の中にも、外国語はかくれています。

それが、「かるた」や「こんぺいとう」などです。かるたもこんぺいとうも、日本に古くからある遊びや食べ物です。ひらがなということもあって、日本語にしか見えません。

しかし、実はこの「かるた」も「こんぺいとう」も、昔、日本にやってきたポルトガル人が使っていた言葉です。ポルトガル人は、今で言うトランプのようなゲームを「カルタ」と言い、さとうがしのことを「コンフェイト」と言いました。それらは、日本に昔からあった食べ物や遊びとむすびついて、ポルトガル人のいう「カルタ」や「コンフェイト」とはまたちがった、新しい遊びや食べ物に生まれかわったのです。このように、わたしたちの使う日本語には、外国から来た言葉がたくさんまぎっているのです。

(一) — ①線部「外国で使っていた言葉をそのままかりた」とありますが、そのような言葉を本文中から二つえらぼう。

--	--

(2) — ②線部「マンション」とありますが、アメリカではどういう意味で使われていますか。

(3) — ③線部「いくらアメリカ人に『コンビニ』と言っても、アメリカ人にはなんのことかわかりません」とありますが、それはなぜですか。あとのア～エの中からえらぼう。

- ア コンビニは日本人が勝手にちぢめた言葉だから。
- イ アメリカにはコンビニエンス・ストアがないから。
- ウ アメリカ人は日本に来たことがないから。
- エ 日本人の英語はアメリカ人に通じないから。

(4) — ④線部「ひらがなで書かれている言葉の中にも、外国語はかくれています」とありますが、あてはまる言葉を本文中から二つぬき出そう。

(5) 次のア～エの中で、本文とあっているものには○、あっていないものには×をつけよう。

- ア 「サッカー」や「ランドセル」の元はえい語だった。
- イ アメリカ人に「コンビニ」と言えば「べんりな店」のことだとわかってくれる。
- ウ 外国から来た言葉はすべてカタカナで書いてある。
- エ 日本語にも外国から来た言葉がたくさんまぎっている。

ア
イ
ウ
エ

次の文章を読んで、あとの問いに答えよう。

虫は、人間にくらべると、とても小さな生き物です。小さな虫は、どのようにして、自分の身を守っているのでしょうか。

虫が自分を守るとき、もっともこうかがある方ほうとして、^①どくがあります。ハチやどくグモなどがそうです。かれらは自分の身にきけんがせまると、はりでさしたり、かんだりすることで、どくを出します。かれらのどくはとて^②も強く、人間でもさされたところが真っ赤にふくれます。なかにはそのせいで死んでしまう人もいるほどです。

しかし、このようなどくをもつ虫は、あまり多くありません。では、どくをもたない虫はどのようにして自分の身を守るのでしょうか。

それは「ぎたい」です。「ぎたい」とは、しぜんの中にあるいろいろなものに、自分の体をまぎれさせることです。たとえばコノハチョウという名のチョウがいます。コノハチョウは、羽を広げると、ぴかぴかと光る、とてもきれいなむらさき色をしています。ところが、^③羽をたたんだすがたは、つやのない茶色のかれ葉そっくりなのです。羽を広げたときの色は、森の中では目立ちすぎて、ときにおそわれてしまいかもしれません。そのため、コノハチョウは木に止まるときなどは羽をとして、木の葉になりきっているのです。

このような「ぎたい」をする虫はほかにもいます。たとえば、「ナナフシ」という虫は、茶色く細長い体で、木のえだそっくりです。ナナフシの中には、緑色でひらべったたい、

^④木の葉そっくりのものもいます。どくを持たない虫たちは、このような方ほうで、ときから自分の身をかくしているのです。

なかには、この「ぎたい」を、身を守るためではなく、ほかの虫をおびきよせ、こうげきするために使う虫もいます。それが「ハナカマキリ」です。ハナカマキリは、カマキリですが、その体はとても小さく、しかも白やピンクなど、とてもかわいい色をしています。ハナカマキリが花のそばでじっとしていると、花びらの一つのように見えます。ここに花のみつをすおうと、チョウなどの虫がとんできます。ハナカマキリは、気づかずに自分のそばにとんできた虫を食べてしまうのです。「ぎたい」をたくみに使うハンター、それがハナカマキリなのです。

(1) — ^①線部「どくがあります」とありますが、どくを使って身を守る虫を二つ答えよう。

--	--

(2) — ^②線部「なかにはそのせいで」とありますが、「それ」とは何を指していますか。あとのア〜エの中からえらぼう。

- ア ぎたい イ 虫
ウ どく エ 人間

--

(3) —③線部「羽をたたんだすがたは、つやのない茶色の
かれ葉そっくりなのです」とありますが、それは何のた
めですか。あとのア、エの中からえらぼう。

ア てきに見つからないようにするため。

イ わざと目だって、てきをひきつけるため。

ウ きれいな羽をじまんするため。

エ むらさき色がすきではないから。

(4) —④線部「このような方ほう」とありますが、これは何
を指していますか。本文中から三字でぬき出そう。



(5) —⑤線部「花のそばでじっとしている」とありますが、
それはなぜですか。あとのア、エの中からえらぼう。

ア 花のみつをすうため。

イ 花に来た虫を食べるため。

ウ てきから身を守るため。

エ ほかのカマキリからなまはずれにされないため。



次の文章を読んで、あとの問いに答えよう。

みなさんが、ふだん使っている言葉は何語ですか。そう聞かれたら、あなたは何と答えますか。

「そんなの、日本語にきまっているよ。」

① たしかにその通りです。でも実は、みなさんが当たり前のように使っている日本語の中には、外国から来た言葉がたくさんまぎれこんでいるのです。

たとえば、「サッカー」や「ランドセル」がそうです。サッカーはえい語、ランドセルはドイツ語が元になっています。これらの言葉は、日本にやってきたとき、それを表す日本語がなかったので、外国で使っていた言葉をそのままかりたのです。

一方、外国の言葉が元になっても、日本で使われるうちに、本来とはちがう使われ方をされたり、ちがう意味を表すようになった言葉もあります。たとえば、「マンション」や「コンビニ」などです。マンションはえい語から来た言葉ですが、アメリカでは「マンション」とは、広い庭がある大きなおやしきのことです。日本では、そういう家をマンションとは言いません。③ 同じ「マンション」という言葉でも、アメリカと日本では意味するものがちがうのです。また「コンビニ」は、えい語で「べんりな店」という意味を表す「コンビニエンス・ストア」という言葉を、日本人が勝手にちぢめたものです。ですから、いくらアメリカ人に「コンビニ」と言っても、アメリカ人にはなんのことかわかりません。

ここまできて、

「カタカナで書いてある言葉が外国から来た言葉なんだろう。」

と思った人もいるかもしれません。たしかに、外国から来た言葉の多くは、カタカナで書かれています。しかし、ひらがなで書かれている言葉の中にも、外国語はかくれています。

それが、「かるた」や「こんぺいとう」などです。かるたもこんぺいとうも、日本に古くからある遊びや食べ物です。これらの言葉を見ても、日本語にしか見えません。

④ しかし、実はこの「かるた」も「こんぺいとう」も、昔、日本にやってきたポルトガル人が使っていた言葉です。ポルトガル人は、今で言うトランプのようなゲームを「カルタ」と言い、さとうがしのことを「コンフェイト」と言いました。それらは、日本に昔からあった食べ物や遊びとむすびついて、ポルトガル人のいう「カルタ」や「コンフェイト」とはま⑤ ちがった、新しい遊びや食べ物に生まれかわったのです。このように、わたしたちの使う日本語には、外国から来た言葉がたくさんまぎっているのです。

(一) — ①線部「たしかにその通りです」とありますが、「その」とは何を指していますか。あてはまる一文を、本文中からぬき出そう。



次の文章を読んで、あとの問いに答えよう。

虫は、人間にくらべると、とても小さな生き物です。小さな虫は、どのようにして、自分の身を守っているのでしょうか。

虫が自分を守るとき、もっともこうかがある方ほうとして、どくがあります。ハチやどくグモなどがそうです。かれらは自分の身にきけんがせまると、はりでさしたり、かんだりすることで、どくを出します。かれらのどくはとても強く、人間でもさされたところが真っ赤にふくれます。なかにはそのせいで死んでしまう人もいるほどです。

しかし、このようなどくをもつ虫は、あまり多くありません。では、どくをもたない虫はどのようにして自分の身を守るのでしょうか。

それは「ぎたい」です。「ぎたい」とは、しぜんの中にあるいろいろなものに、自分の体をまぎれさせることです。たとえばコノハチョウという名のチョウがいます。コノハチョウは、羽を広げると、ぴかぴかと光る、とてもきれいなむらさき色をしています。ところが、羽をたたんだすがたは、つやのない茶色のかれ葉そっくりなのです。羽を広げたときの色は、森の中では目立ちすぎて、てきにおそわれてしまうかもしれません。そのため、コノハチョウは木に止まるときなどは羽をとじて、木の葉になりきっているのです。このような「ぎたい」をする虫はほかにもいます。たとえば、「ナナフシ」という虫は、茶色く細長い体で、木のえだそっくりです。ナナフシの中には、緑色でひらべったたい、

木の葉そっくりのものもいます。どくを持つていないかれらは、このような方ほうで、てきから自分の身をかくしているのです。

なかには、この「ぎたい」を、身を守るためではなく、ほかの虫をおびきよせ、こうげきするために使う虫もいます。それが「ハナカマキリ」です。ハナカマキリは、カマキリですが、その体はとても小さく、しかも白かったりピンクだったりと、とてもきれいな色をしています。ハナカマキリが花のそばでじっとしていると、花びらの一つのように見えます。そこに花のみつをすおうと、チョウなどの虫がとることができます。ハナカマキリは、「ぎたい」に気づかずじつに自分のそばにとんできた虫を食べてしまうのです。「ぎたい」をたくみに使うハンター、それがハナカマキリなのです。

(一) — ①線部「死んでしまう人もいるほどです」とありますが、それはなぜですか。あとのア～エの中からえらぼう。

- ア 虫の出すどくがとても強いから。
- イ 虫の出すどくはあまり強くないから。
- ウ 人間の持つどくはとても強いから。
- エ 人間は虫にくらべてとても大きいから。



(2) — ②線部「羽を広げたときの色」とありますが、それはどんな色ですか。本文中から二十字でぬき出そう。ただし、点や丸も一字とします。

(3) — ③線部「茶色く細長い体」とありますが、このナナフシは何に「ぎたい」をしているのですか。あとのア、エの中からえらぼう。

- ア 花びら イ かれ葉
- ウ 木の葉 エ 木のえだ

(4) — ④線部「かれら」とは、だれを指していますか。本文中から二つぬき出そう。

(5) — ⑤線部「『ぎたい』をたくみに使うハンター」とありますが、どういう意味ですか。あとのア、エの中からえらぼう。

- ア 「ぎたい」を使って自分の身を守っているから。
- イ 「ぎたい」を使ってえものをおびきよせるから。
- ウ 「ぎたい」を使って人間をおそうから。
- エ 「ぎたい」を使って身をかくしているから。



次の文章を読んで、あとの問いに答えよう。

「ひなまつり」は、三月三日に行われる有名なお祭りです。ひな人形が家にあるという人も多いのではないのでしょうか。「ひなまつり」は、もともと中国からつたわったものです。中国では昔から、三月はじめにいろいろな遊びをしてわざわざいはらう風習がありました。これが日本にもつたわってひなまつりとなっていったのです。またひなまつりのことを「もものせつく」というのも、中国で、ももがまよけの力をもつと考えられていたことが、日本にもつたわったからだといわれています。

しかし、当時は今のようないなひな人形はなく、紙で作られた人形でした。紙でできた人形で体をなでて川に流すことで、自分の体から悪い部分をとりぞこうとしたのです。昔の人は、人形が自分のかわりに悪いものを引き受けてくれると考えていたのです。時代が進むにつれて、流す人形の形もさまざまになっていきました。これは今でも、「ながしびな」という行事として日本のいろいろな場所にのこっています。

では、いつごろから今のようないなひな人形が生まれたのでしょうか。三月三日の行事とはべつに、女の子たちの間で「ひいな遊び」という、人形を使ったままごとのようなものがはやっていました。この「ひいな」と、行事に使われていた人形とがむすびついて、今のひな人形になったと考えられています。もともと、女の子の遊び道具だった「ひいな」ですが、時代を重ねるにつれて、「かざりびな」というごう

かな人形になっていきました。このかざりびなは、「おびな」と「めびな」、つまり、ひなだんの一番上にかざられている二体だけしかありませんでした。しかし、江戸時代に、ひなまつりが日本かく地に広まるにつれて、人形の数やかざりもふえていきました。今では、三だんのものや七だんもあるごうかなひなだんも数多くあります。

江戸時代の中ごろには、身分の高い人だけでなく、さまざまな人がひな人形をむすめのために買うようになりました。ひなまつりは、女の子が美しく、すこやかに育つようにとの、両親のねがいがこめられているのです。

(1) — ①線部「これが日本にもつたわって」とありますが、ひなまつりはどこから日本につたわったものですか。

(2) — ②線部「紙で作られた人形」とありますが、それはなぜ今のようないな人形ではなかったのですか。あとのア～エの中からえらぼう。

- ア 川に流してしまおうから。
- イ びんぼうな人しか人形を買えなかったから。
- ウ お金もちにしか紙が買えなかったから。
- エ 自分のいいところを、人形にうつしたかったから。



(3) ③線部「かざりびな」とありますが、これはどのよう
にしてできましたか。あとのア～エの中からえらぼう。

ア 三だんのもはや七だんのものが作られるようになって
たのでできた。

イ 川に流す人形が、だんだんとうごうかになってできた。

ウ 女の子たちの間で、人形遊びがさかんになったた
めにできた。

エ 川に流す人形と、ひいな遊びの人形がむすびつい
てできた。

(4) 昔のひなだんと今のひなだんでは、どちらがうのです
か。あとのア～エの中からえらぼう。

ア 昔はごうかだったが、今は小さい。

イ 昔も今も、あまりかわらない。

ウ 昔は二体だけだったが、今はごうかだ。

エ 昔は二体だけだったが、今はまったくくない。

(5) ④線部「両親のねがい」とありますが、ひなまつりに
は、両親のどんな思いがこめられていますか。本文中か
ら十八字でぬき出そう。ただし、点や丸も一字とします。



次の文章を読んで、あとの問いに答えよう。

① 「ひなまつり」は、三月三日に行われる有名なお祭りです。ひな人形が家にあるという人も多いのではないのでしょうか。「ひなまつり」は、もともと中国からつたわったものです。中国では昔から、三月はじめにいろいろな遊びをしてわざわざいはらう風習がありました。これが日本にもつたわってひなまつりとなっていったのです。またひなまつりのことを「もものせつく」というのも、中国で、ももがまよけの力をもつと考えられていたことが、日本にもつたわったからといわれています。

しかし、当時は今のようないなひな人形はなく、紙で作られた人形でした。紙^②でできた人形で体をなでて川に流すことで、自分の体から悪い部分をとりぞうとしたのです。昔の人は、人形が自分のかわりに悪いものを引き受けてくれると考えていたのです。時代が進むにつれて、流す人形の形もさまざまになっていきました。これは今でも、「ながしびな」という行事として日本のいろいろな場所にのこっています。

では、いつごろから今のようないなひな人形が生まれたのでしょうか。三月三日の行事とはべつに、女の子たちの間で「ひいな遊び」という、人形を使ったままごとのようなものがはやっていました。この「ひいな」と、行事に使われていた人形とがむすびついて、今のひな人形になったと考えられています。もともと、女の子の遊び道具^④だった「ひいな」ですが、時代を重ねるにつれて、「かざりびな」というよう

かな人形になっていきました。このかざりびなは、「おびな」と「めびな」、つまり、ひなだんの一番上にかざられている二体だけしかありませんでした。しかし、江戸時代に、ひなまつりが日本かく地に広まるにつれて、人形の数やかざりもふえていきました。今では、三だんのもはや七だんもあるごうかなひなだんも数多くあります。

江戸時代の中ごろには、身分の高い人だけでなく、さまざまな人々がひな人形をむすめのために買うようになりました。ひなまつりは、女の子が美しく、すこやかに育つようにとの、両親のねがい^⑤がこめられているのです。

(1) ①線部「ひな人形が家にある」とありますが、これはどのような人の家ですか。あとのア～エの中からえらぼう。

- ア 男の子のいる家
- イ 女の子のいる家
- ウ 子どもがいない家
- エ 一人ぐらしの家

(2) ②線部「紙でできた人形で体をなでて川に流す」とありますが、なぜですか。あとのア～エの中からえらぼう。

- ア きれいな人形に取りかえなかったため。
- イ 中国の人のまねをしたかったため。
- ウ 自分の悪い部分を人形に引き受けてもらうため。
- エ 川をきれいにするため。



(3) —③線部「今のようなひな人形」とありますが、これはどんなひな人形ですか。あとのア〜エの中からえらぼう。

- ア 紙でできた人形
- イ 目鼻をつけた人形
- ウ 昔の女の子が遊んでいた人形
- エ 美しいごうかな人形

(4) —④線部「かぎりびな」とありますが、はじめのころは何だんのひなだんが作られていましたか。あとのア〜エの中からえらぼう。

- ア 一だん イ 三だん
- ウ 五だん エ 七だん

(5) —⑤線部「女の子が美しく、すこやかに育つように」とありますが、これはだれのねがいですか。